

【『そっと、抱きよせて―競作集・怪談実話系』例会】

【目次】

初めに：怪談の分類について

作品1：詠坂雄司「囁き」

作品2：朱野帰子「獣の夜」

作品3：朱雀門出「猿工場の怪」

作品4：伊藤三巳華「山に抱かれて―ミミカの遠野物語」

【初めに：怪談の分類について】

1：怪談実話……取材という手法で語り手の怪異体験を聞き出し、それを記録する怪談・客観性やリアリティが最も重視される分野
稲川淳二の怪談群や木原浩勝・中山市郎著『新耳袋』シリーズ etc.

2：怪談フィクション……怪談でありながら、舞台を江戸時代に持って来る、現代でも幻想小説的な風味を加味しているといった作風の怪談・人工的に「恐怖」を作り出す側面が強い分野であり、幻想小説や怪奇小説との距離の方が近い
山白朝子『エムブリヲ奇譚』・恩田陸『私の家では何も起こらない』 etc.

3：怪談実話系……現実にその場で取りざたされている都市伝説を元にするなど、怪談実話の体裁を取りつつも、そこに幾許かのフィクションも混ざり合う事で、どこまでが現実の事でどこまでがフィクションなのかという事が判らなくなる怪談のスタイル・提唱者の東雅夫によれば「現実と非現実のあわいに楔を打ち込む」文芸であるとの事
雀野日名子『あちん』を嚆矢とし、『怪談実話系』シリーズというアンソロジーが存在している

【作品1：詠坂雄司「囁き」～確かに怪談ではないのかもしれない～】

・怪談における「謎」の効果／ミステリ作家と怪談

・ある事象を怪談と認識する問題

・怪談実話系として

【作品2：朱野帰子「獣の夜」～いとおしくてたまらない～】

・フィクション側からの怪談実話系

・二重の「獣」

・ラストの2つの可能性～幻視という視点から～

※以下、各著者に関しては課題本に記された内容を参照

【作品3：朱雀門出「猿工場の怪」～猿工場いうのはやね、そう呼ばれている謎の廃施設やねん～】

【メモ欄】

- ・怪談実話も怪談フィクションもこなす作家として

- ・作者定番の「会話」ネタ／その怪談実話系としての効果

- ・不条理怪談

【作品4：伊藤三巴華「山に抱かれて—ミミカの遠野物語」～これはブナの本の記憶だろうか……～】

- ・「見える」書き手／「見える」事と怪談との関係性～「日常」という視点から～

- ・怪談と漫画

- ・本作と『遠野物語』